



洋書輸入協会会報

Vol. 30 No. 5 (通巻348号) 1996年 5月

理事会報告

4月12日(金)

(一)3月分収支報告

4月11日(木)開催の総務委員会で審議の3月分収支について総務委員長の報告を承認した。

(二)1995年度決算報告審議

同日同委員会で作成の1995年度決算書について審議したが、前月提示された一部(3月分)推定額を加えたものと略同額で、次期繰越額もそれ以上であることを確認し承認した。

予算案については前回検討済で今度の定時総会に諮ることとした。

(三)1996年度定時総会次第の検討

総務委員会より提出された1996年度定時総会次第(案)を検討し一部訂正の上承認した。

(四)その他

役員選挙の内、幹事の選挙のあり方に多少問題があることが選挙管理委員会からも出されており、来期に協会規約改定を含め検討することとした。

海外ニュース

1994年米国出版データ

Publishers Weekly 誌(R. R. Bowker)のデータによると、1994年の米国出版総点数は、久々に'89年のレベルに立ち戻り、合計51,863タイトルを記録した。これは1993年の49,757点を2,000点余りも上回る数で、ほぼ10年ぶりにみる伸び率となった。

出版点数の減少は1988年にはじまり、1990年には最低の46,743点となっている。その後4年は徐々に回復し、1994年の飛躍的増加に至った。1995年のデータがまだ出揃っていないため、今後については今のところ予測不可能である。

形態別・ジャンル別のデータは興味深い数字を示している。ハードカバーは2,608点、トレードペーパーバックは1,195点の増加と好調な伸びを示しているのに対し、マスマーケット・ペーパーバックは906点減少となった。マスマーケット本の減少は1993年に始まったことだが、1994年はその傾向に拍車がかかり、出版点数は2,658点となった(前年3,564点)。ただし、この数字には今年からR. R. Bowkerが導入した新しいデータ集計方法の影響も若干あると考えられる。

1994年は殆どのジャンルが目すべき伸びを示しているが、なかでも社会・経済学分野は536点増、科学分野は343点増、総記・一般が338点増となった。逆に、わずかな減少が小説、児童・青少年書などを含めた幾つものジャンルで見られた。小説、児童書とも、マスマーケット本の減少と連動した結果と見られる。児童書は220点の減少で、1983年以来最低の数字である。

価格に関しては、1993年にハードカバーの平均単価が\$10.07も下がるという怪現象が起こったが、1994年には正常にもどり、平均単価は\$44.65となった。もっとも、この価格は1992年の平均単価\$45.05をわずかに下回ったままである。

分野別出版点数ベスト5は、上位から順に社会・経済、小説、児童・青少年向け、医学、科学となっている。

—PW 1996. 4. 29号より抜粋—

目次

理事会報告	1	秋山昭夫氏の急逝を悼む	3	洋書輸入協会史(105)	5
海外ニュース	1	うちの会社	4	出版文化史逍遙(5)	7
インターネットに 参加してみよう	2	おしらせ	4	広告	8

インターネットに参加してみよう

紀伊國屋書店 会 津 淳

これまで約半年にわたって、インターネットがどのようなものであるのかを紹介してきた。これからしばらくは、具体的にインターネットに参加するための方法についてわかりやすく説明していくことにしたい。

インターネットに参加して何をしたいのか。電子メールの交換をしたい。TELNET で図書館の蔵書目録やデータベースを検索したい。FTR でソフトウェアを入手したい、WWW で世界中のホームページを見て歩きたい等々。あるいは自分のホームページを作って、世界中へ向けて情報発信をしたいと考える人もいるだろう。もちろん最初から明確な目的がはっきりしていないことも多いだろうが、多少なりとも目的をはっきりさせておいた方が準備の途中で迷わなくてすむだろう。

インターネットに参加するために必要な準備は次の4つである。まずハードウェア。現在すでにパソコン通信などをしているのであれば、そのハードウェアがそのまま利用できるが、場合によってはモデムを高速のものに買い換えた方がよいかもしれない。二つ目にソフトウェア。これはインターネット用のものが必要になるので新たに購入するか、あるいは無料で配布されているもの（雑誌などの付録になっていることも多い）を入手することになる。どのようなソフトウェアが必要になるかは次回にお話する。三つ目がプロバイダとの契約。インターネットに接続するためには、接続を請け負う業者（プロバイダ）との契約が必要である。最後の四つ目が、インターネット上のサービスへの申込み。インターネット上には無料で公開されていて誰でも利用できるサービスもある。こういったサービスを利用するためにはそれぞれの申込が必要であるが、この四つ目は後から必要になった時点で考えてもよいだろう。

誌面も限られているので、今回はプロバイダとの契約に的を絞る。日本には百ともいわれるプロバイダがある

が、その中からどのプロバイダを選んだらよいのだろうか。まず第一のポイントは、自分が希望する接続方法を提供しているかどうかである。接続方法とは専用線をひくのか、あるいは電話回線を利用するのか（ダイヤルアップ接続）のことである。一般には後者を利用することになるので、契約しようとしているプロバイダがダイヤルアップ接続、しかも従来からあるアナログ電話回線によるダイヤルアップ接続を提供しているかどうか判断のポイントになる。また接続ポイントが近くの都市にないと電話代が余計にかかるので、これも確認しておいた方がよい。

自分でホームページを持とうと考えている人は、レンタルホームページのサービスをしているかどうかプロバイダを選ぶ判断のポイントになる。常時回線がつながっている専用線接続であれば自分の手元にホームページをおけるが、ダイヤルアップ接続ではプロバイダ側にホームページを置かせてもらうことになる。このサービスをしているプロバイダは、あまり多くない。

インターネットによる通信は、いくつものプロバイダを経由して相手まで届く仕組みになっている。したがって、途中で経由するプロバイダの数が多く、しかもプロバイダ間の回線が低速だと、通信相手からの反応が戻ってくるまでの待ち時間が長くなる。通信をする相手によって相手が加入しているプロバイダもまちまちなので、一般的には多数のプロバイダと直接高速回線で結ばれているところの方が効率のよい通信ができる。

自分がインターネットで何をしたいのか、どの程度の頻度で利用するのか、予算はどの位取れるのかなどを考慮した上でプロバイダへ申し込みをするようにして欲しい。次回は、必要なハードとソフトを紹介する予定である。

相 聞 歌

秋山昭夫氏の急逝を悼む

思いつめ働きたりし事はてて

固形の麺を湯にはぐしいる

二十数年前、この会報の「会員の横顔」というコラムを担当していた頃、秋山さんを訪ねた時に示された一首である。

アララギ派の歌人であり、人形作家としても著名であった鹿児島寿蔵に師事し、歌誌「潮汐」の編集同人でもあった彼の、若き日の佳品のひとつであろう。

それにしても、インスタントラーメンも歌詠みの手にかかると、かくも優雅に変身するものか、と感じ入り、その後私は袋から出したラーメンを鍋に放りこむたびに、この歌を思い浮かべるようになった。

そのうちに、互いに好きな道とあって、歌や俳句や文学のことで話しあう折りがふえるようになる。彼も、肺結核で長い療養生活を送り、手術によって「いのち長らえた」ということも、親近感をます要因のひとつであったかもしれない。その時の私たちの前に、いつもグラスが盃があったことは改めて言うまでもなからう。

協会では「文化厚生委員会」に所属していたが、そこでめぐりあった「コーケンブック」の社長、石塚真知子さんとの間に恋の花が咲き、一同の祝福のなかに新家庭を持たれる。

しかし、人生は無情である。やがて真知子さんは病を得て、入院生活を送ることとなり、秋山君の病院日参がはじまる。それは「相聞」という言葉がいかにもふさわしい世界であったのではなからうか、と私は想像する。
末期には声を失った真知子さんの筆談にこたえる彼の心中はいかばかりであったろうか。

一日も休むことのなかった佼成病院通いも、やがて終わるときがきた。そのころの彼の放心ともいえる落胆ぶ

りは、声をかけることもはばかれる状態であった。

たまたま、この小文を草するにあたって、日時などを確かめたくて古い手帳を繰ってみた。1990年7月9日の欄に「秋山真知子さん逝去」とあり、通夜や告別式の日程が書き込まれている。その同じ頁に次の歌が書かれている。

街にいでて何をし食はば平らけき

心はわれにかへり来むかも

これは、斎藤茂吉の歌集「白桃」にある歌であるが、当時、あまりの彼の落ちこみように適当な言葉もなく、慰めの手紙のなかに書き付けたものと思われる。

会報委員会のメンバーとなり「本に関わる短歌」などの記事を書くようになった彼とは飲食の機会も増えた。麴町の鰻や「秋本」が好きで、夕方、仕事を終えて、ここで一献するのが楽しいときだと、洩らしたこともある。「柿本人麿と斎藤茂吉、この二人を凌ぐ歌人はいませんね。」と言った彼としては、鰻好きだった斎藤茂吉の歌のあれこれを思い浮かべながら「秋本」で過ごす時間は貴重なものであったのかもしれない。

あまりにも急な彼の死に接し、思うことは唯ひとつ、これで彼はまた真知子さんと一緒になれる、ということである。

いつか会報委の旅行で酒田から新庄まで、最上川に沿ってドライブしたとき、たまたま後席にいた彼が、

最上川の上空にして残れるは

いまだうつくしき虹の断片

という茂吉の歌をスラスラと口ずさんだことを思い出す。いまはただ、ふたりして、虹の橋から、いつもあくせくとしている私たちを見ていてください、と念じるばかりである。
(メクレンプルグ商会、鈴木)

株式会社 南 江 堂

明治12年創業以来117年と永い歴史を持つ南江堂は、当時の東京帝国大の医師、学生の参考書を取り扱う形でドイツ医学書の輸入からスタートしたと聞いております。森鷗外の「キタ・セクスアリス」の書き出しからすこし進むと、『教場で学生の一人がJerusalemの哲学入門という小さな本を持っているのを見た。それを手に取って見て、どんな本だと問うた。学生は南江堂に来ているから、参考書になるかと思って買ってきました、……』とあり、明治40年代にはすでに南江堂が洋書の書店として営業をしていた記述が見られます。

一時は化学書、ドイツ語教科書、パンチカードと色々やっておりましたが、現在では医学・薬学・看護等の出版と洋書・洋雑誌の輸入販売に力を入れております。また、年配の方ならご存じの三代前の洋書部長

故佐野庄司は、業界の大久保彦左衛門の存在で大手の無茶な競争を戒め、トラブルを見事に裁いておりました。

しかし、このところ、医師、学生の語学力の低下や、優れた出版・翻訳の出現等で洋書の需要が下降傾向にあるように思えます。大学（文部省）、病院（厚生省）の競争原理導入（外資導入）と称する業者いじめ、これに呼応するがごとき業者間の過剰競争、これらが相俟って今や中小洋書輸入業者は虫の息（!?!）。

とはいえ、「優秀な先生が洋書を読み、洋書を読む先生が偉くなっていったので、医学の発展に貢献している」と自負していた時代を思い起こし、CD-ROM等のニューメディアの開発も含めて「価値あるものをそれ相応の価格」で輸入販売し、学術研究に寄与できればと願っております。（東條 巖）

おしらせ

日米図書館会議が下記の通り開催されます。

期間：1996年9月3日（火）～4日（水）

会場：国立音楽大学

主催：日米図書館会議「電子化する情報環境と学術図書館」実行委員会

問い合わせ：同実行委員会事務局 国立音楽大学附属図書館内

☎ 0425-36-0799 Fax 0425-35-7590

各社の新代表取締役社長に下記の方々が就任されました。

◎株式会社 三 善 齋田 利幸氏

◎白鷗洋書株式会社 秋山 幾男氏

◎株式会社 国際書房 鈴木 知氏

（なお、国際書房の前社長 服部貞夫氏は取締役会長に就任されました。）

JBIA DIRECTORY 1996

（洋書輸入協会ダイレクトリー1996年版）

25.7×18.2cm 284頁 会員価格 2,500円（送料共）
一般価格 4,500円（ " ）
海外価格 8,000円（ " ）

124 洋書輸入協会専用事務所の設置と事務専任者の雇用

124.5 当初設備費の調達案

昭和41(1966)年9月16日の理事会では、関西支部の事務所について検討された。その結果は、事務所設置のための設備費が60~70万円かかるということであり、東京との同時設置は資金的に困難であろうから、関西には東京に設置後若干の時差を置かれるよう申し入れることとなる。

本部事務所設置のためには、設備資金として約100万円を要するので、その資金をどのように調達するかを検討したが、結局東京所在の会員約55社から各1万円づつを集めて55万円、残り45万円のうち、丸善が20万円、紀伊國屋書店が10万円、残り15万円を理事各社が分担する案で大体まとまっている。

10月14日、10月21日の理事会では、それまでの流れに異見が出て激論が交されたが、11月2日の理事会でこれも調整され、急に全体計画が進み始めた。

なお10月21日の理事会では、先の理事会で決めた各理事からの、5,000円と3,000円の会費の負担に関する全会員への働きかけ結果の2度目の集計作業を行った。その結果は、理事各社1万円で計11万円、5,000円負担可能28社で計14万円、3,000円会費希望は23社で計6.9万円、総計62社で31.9万円となっている。

124.6 事務所設置案急速に具体化する

11月2日の理事会では、資金計画、事務所開設費の算定、事務所開設後の経常収入と支出計画などが綿密に計算された。これによれば関西支部の事務所は、本部よりも数カ月遅れで開設出来るという見通しもついた。

事務員は、先日桜井氏から推薦された寺久保氏が、12月からアルバイトとして手伝ってくれることとなった由。こうして設置計画は、12月上旬に臨時総会を開いて会員の承認を得ることを目標にしよう、という所まで煮詰まってきた。

11月15日の理事会では、更にこのスケジュールを検討し、設置基金は各社1万円、会費(月)は1万円、5,000円、3,000円の3種類、人は事務長と事務員各1名を置くなどの案が本決まりになっている。

昭和41(1966)年11月20日付JBIA No. 231では、12月7日に臨時総会を開き、次の議題を審議すると通知が出来る段階にまで漕ぎ着けることができた。

- (1) 東京本部・関西支部事務所設置の件
- (2) 事務所設置予算案
- (3) 会費の改訂とその徴集方法案
- (4) 事務長1名と事務員採用の件
- (5) その他

このJBIA No. 231には、詳細な設置計画及び予算案がついている。その要点は次の通り。

- (1) 事務所の坪数 本部・支部とも10坪内外。
- (3) 設置時期 本部明年3~4月頃、支部明年4月以降。
- (3) 基金 各社1万円の負担。65社で計65万円。
- (4) 会費値上げ 現行各社一率1,000円を、理事社1万円、5,000円会員及び3,000円会員の3種とし、月計33.6万円。値上げは昭和42(1967)年1月より。
- (5) 設置予算 1~3月の会費収入100.8万円と、上記の基金65万円とこれをあて、計165.8万円。
- (6) 設置のための支出 借室敷金、什器、備品、本部計79万2,550円、支部70万円。
- (7) 設置後の経常支出予算 人件費、関西支部費含み、月平均26.81万円。

124.7 協会事務所設置に関する臨時総会

昭和41(1966)年12月10日付、JBIA No. 232では、臨時総会の様子をおおよそ次のように知らせている。

記

予てお知らせ申し上げました通り、12月7日頭記の件について日本出版クラブに於て臨時総会を開きました。

当日御本人出席32社、委任状14社の代理出席により、過半数にて総会成立、議題も一社の御異議等ありましたが、結局全員一致の御賛成を得まして提案の通り可決されましたので、ご通知申し上げます。

まず最初に桜井理事長代理より下記の通り提案の理由が説明されました。「協会事務所設置については、大方のご要望により成案を急いでおりましたが、会員数ที่เขา団体に比し極めて少ないこと、会自体の事業収入が安いことにより、自然各自の分担会費が高くなり、それに見合うメリットの希薄であること等を勘案し、なるべく無

理にならぬよう設立の方法を検討しておりましたので、大変延引する結果となりました。

提出の設置計画及び予算案によって詳細お判り願えると思いますが、設置後の経常費については何分初めての運営のこととて、確実な支出額を想定することが困難なため、一応年度の予算をそのまま計上し、それに新規費となる人件費、家賃光熱費、関西支部費を加算したものと致しました。

なお事務長には、元丸善の洋書商品課長であった寺久保一重氏を理事会として推薦することに内定致しました。

次に協会そのものの必要性、および事務所設置後のメリットにつきまして多くの質疑がありましたが、理事長代理、服部理事等より「戦後の外貨割当制より自動承認制へ移行の際の理事一同の協力、協会が無かった場合のデメリット」などが説明され、更に「事務所設置後は専任者を置くことによって、協会自体の活動を強化しコミュニケーションを密にして会員間の協力関係を一層固くし、資本の自由化により海外資本の進出等を予想される際にあらゆる対策を講じ、内外の協会の信用を高めようとするもので、差し当たっての事業としては、地味ではあるが会報の発行、外国雑誌誤配分の会員相互の利用等から着手しようとしている」などの説明がありました。

これに対し具体的な事業についての意見も出され、また同時に今後会員の皆様に適当な事業のアイデアがありましたら、御気付の節御提案を願うことと致しました。

なお、会費の徴集方法としては、原則として3ヶ月分をまとめて納入願うことに致しました。(以上)

この臨時総会は、これによって専用事務所開設へのレールが敷かれ、今日(平成8年、1996年)に至っている次第で非常に重要な意義を持っているものである。

124.8 事務所設置、会費値上げの波紋

昭和42(1967)年2月3日の理事会では、次の4社の退会届が審議され、2月8日に受理された。脱会の理由は次記の通り。

(1) 東京堂 (2) 三越

この2社は古い会員であり、かつては有力な会員であったが、現在は両者ともほとんど洋書をやっておらず、専用事務所設置、会費大幅値上げを機会に退会したいというもの。なお三越は昭和16年に海外出版物輸入同業会が成立した折の理事であり、戦前のひところは丸善に対抗する程の勢いであったといわれる。

(3) 内山書店 退会の理由は、3倍になった会費を支払

い切れないというもの。

(4) 泉屋書店 1月付で会員各社に次のような退会の挨拶状が届けられている。

記

拝啓 貴社愈ご清栄の段慶賀の至りに存じあげます。

さて弊社永年洋書輸入協会会員として皆様のご好誼ご指導を賜って参りましたが、この度の事務所設置の件につき慎重に考えてみたのですが、どうもうまくゆくとは思われず、ひいてはそれより派生するかとも思われる混乱に巻き込まれるのも不本意のこと故、この際退会させて頂くことにいたしました。

在会中のご厚志を感謝致しますと共に今後とも一層のご指導ご厚誼を賜りますようお願い申し上げます。

まずは略儀ながら書中をもってご挨拶申し上げます。

敬具

昭和四十二年一月

株式会社 泉屋書店

社長 尾崎義夫

取締役 尾崎 充

(以上原文のまま)

これらをもって分るように、専用事務所設置、会費大幅値上げは、決してすんなりと全会員から受け入れられた訳ではない。理由はさまざまであっても、一挙に4社もの退会者を出した程の影響を及ぼしている。

124.9 寄附金の件

昭和42(1967)年4月21日の理事会では、日本に駐在する海外各出版社の代表に対し、既に決っている各5万円の寄付要請の結果が極めて芳しくないのを、改めて代表12社に対し理事各社を割り当てて説得につとめることとなった。

6月8日の理事会で各理事にこの件の報告を求めたところ、肝心のJBIA会員の寄付はどうなっているかと逆ねじを食って難行していることが判明、早急に理事自身の寄付を実現させることを決めた。実は理事の寄付については一旦は決っていたのであるが、異議が出て実現がのびのびとなっていたもの。改めて丸善20万円、紀伊國屋10万円、日貿・海外・US各5万円、洋販・三洋・東光・国際・旭屋・緑各3万円、計11社63万円の寄付が決定し、三洋の鈴木氏が奉賀帳を持って廻ることとなった。

(続く)

シーボルト将来本〔1〕

丸善・本の図書館 鈴木 陽 二

◆シーボルトの第1回来日と搬入書籍(1)

江戸時代、特に幕末に向けていろいろな形で洋書が流入してきたことは広く知られているが、それぞれのケースについては、いずれ機会を見てこの連載でも紹介していきたいと思っている。今回はその一側面として、シーボルトの二度にわたる来日（1823＝文政6年、1861＝文久1年）に際して搬入（将来）した図書について、その内容と行方を探ってみることにしたい。

1796年に生まれたシーボルトは今年生誕200周年にあたる。それを意識したわけではなかったが、図らずも記念の年にこのテーマを選ぶことになった。彼の日本における活動と業績についての簡単な紹介は、かつて本誌に記載したのでそれをお読みいただきたいが（『東京の坂と橋と文明開化』28＝シーボルトの愛した日本）、最近秦新二『文政十一年のスパイ合戦—検証・謎のシーボルト事件』という大変おもしろい本が出版された。それによると、シーボルトの第1回来日の任務は長崎オランダ商館付医師と日本の博物学的調査ということに止まるのではなく、日蘭貿易戦略調査と政治・軍事戦略調査も目的に含まれていて、その命令はジャワの蘭印政庁総督から直接与えられたという。彼の日本における資料・情報収集はその使命に沿って行われたのであるが、その結果発生したシーボルト事件は幕府の策謀によるものであったということを、ライデン大学図書館やライデン国立民族学博物館、自然史博物館などで所蔵している新発見の資料に基づいて検証し、シーボルト像に新たな光を与えたものである。一読をお勧めしたい文献である。

それはさておき、Philipp Franz Siebold（1796-1866）は1823年（文政6）に長崎オランダ商館付医官として日本に派遣された。彼は医官としての本来の職責のほかに日本の万有学的調査（総合的調査）をオランダ政府より委嘱されたが、その調査・研究の参考資料として持ち込んだ図書の一部が判明している。シーボルトは日本に派遣されるに当たって、支給された1,827フルデン＝3,800万円（秦新二「前掲書」）という巨額の費用のかなりの部分をつぎ込んで、日本研究書を始め参考図書を購入した。長崎のオランダ商館長の赴任手当326フルデ

ンから比較して異例の高額支給であったことから、彼の日本での使命の特殊性・重要性が推察できるのであるが、シーボルトは、これでも資金が不足して幾度も総督に無心したという。ここでは主として竹内精一氏の研究「1823年シーボルトが欧州とバタヴィアから舶載させ25年長崎で受取った書籍とその後の運命」に基づいてその書籍を追ってみることにしよう。

この資料は、インドネシア共和国国立文書館に所蔵されているもので、シーボルトが1825年12月2日付けで蘭印総督官房長あてに報告した勘定書であるが、これに具体的に43点の書籍のタイトルと価格が表示されていて、彼が来日に当たって注文し、入手した書籍の内容を目にすることができる。

ところで、ケルナー（Dr. Hans Koerne）の『シーボルト父子伝』（竹内精一訳）はシーボルト研究のバイブル的図書であるといわれているが、この本に上述リストに含まれていない日本関係書籍が若干挙げられている。それによると、シーボルトは「島国日本について、入手できる文献はことごとく購入した」ということで、アルノルト・モンターヌスの古い時代の旅行記（1669）、エンゲルベルト・ケンプファーの旅行記（1712）、ミヒャエル・ベルンハルト・ヴァーレンティーンが蒐集し1714年に独訳を刊行した日本への渡航者書簡集、前商館長イーサーク・ティツィングの「日本図説」（1812）、フランス人ラペルーズの旅行記（1799-1800）、ゲオルク・ハインリッヒ・フォン・ラングスドルフの旅行記（1812）、アダム・ヨーハン・フォン・クルーゼンシュテルンの旅行記（1810-11）、ヴァジリ・ミハイロヴィッチ・ゴロヴニンの旅行記（1817）、C. P. テューンベリの日本植物誌（1784）、ベルソーンの植物学（1805-1807）などを将来した。これらの日本関係図書は大変有名なものなので一々解説はしないが、いずれも日本を世界に紹介した重要な文献であったし、またシーボルトの日本研究には欠かせない参考書籍であつたらう。

そのほかにも、彼が日本滞在中に門人や知人、また資料収集の協力者に多くの図書を贈っている。それらは次回に紹介することにしよう。

< ASM International >

Binary Alloy Phase Diagrams on CD-ROM

2nd Edition plus Updates, Version 1.0

Supplemental Literature Review Editor: Hiroaki Okamoto

1996年4月刊行

1990年に出版された T.B. Massalski, H. Okamoto, P.R. Subramanian, L. Kacprzak 著の二元合金状態図集 (約3,600ページ) と1991-1994年に Journal of Phase Equilibria に掲載された Updates (約400ページ) のデータを合わせて CD-ROM版による二元合金状態図集が米国 ASM International より発行されました。約3,000の二元合金系に関する約5,000枚の状態図をはじめ、関連するテキスト、中間化合物の結晶構造、文献等に関する情報が、最新のコンピュータ技術の導入により一層使い易くなりました。

[システムの必要条件]

■ 80386以上のプロセッサ - 4MBの基本メモリー - Windows Version 3.1以上

[価格]	定価	書籍版保有者価格
■ ユーザー人数 1名 (私費購入)	¥123,900	¥92,400
■ ユーザー人数 2~5名	¥186,200	¥139,300
■ ユーザー人数 6名以上	¥247,800	¥185,500

*マッキントッシュ版は本年夏頃刊行予定です。

< ALSO OF INTEREST >

Binary Alloy Phase Diagrams, 2nd Edition (3 volumes set) (書籍版)

Edited by T.B. Massalski, H. Okamoto, P.R. Subramanian, and L. Kacprzak

1990, 3,589 pages, ISBN 0-87170-403-X ¥205,200

Handbook of Ternary Alloy Phase Diagrams (10 volumes set)

Edited by H. Okamoto, P. Villars, and A. Prince

1995, 13,808 pages, ISBN 0-87170-525-7 ¥1,049,250

Pearson's Handbook of Crystallographic Data for Intermetallic Phases, 2nd Edition

1991, 5,348 pages, ISBN 0-87170-416-1 (4 volumes set) ¥317,100

Atlas of Crystal Structure Types for Intermetallic Phases

1991, 7,026 pages, ISBN 0-87170-421-8 (4 volumes set) ¥248,850

* Pearson's と Atlas にはセット価格(¥448,950)が設定されています。

(価格はいずれも税別)



ASM International Alloy Phase Diagram

日本総代理店 株式会社ニュートリノ

本社: 〒182 東京都調布市布田1-44-3 高橋ビル TEL(0424)84-5550 FAX(0424)84-5556

1996年5月 通巻第348号 洋書輸入協会

編集者 神田 俊二

〒103 東京都中央区日本橋1-21-4 千代田会館5階20号室

☎(03) 3271-6901 FAX. (03) 3271-6920

印刷所=藤本総合印刷株式会社